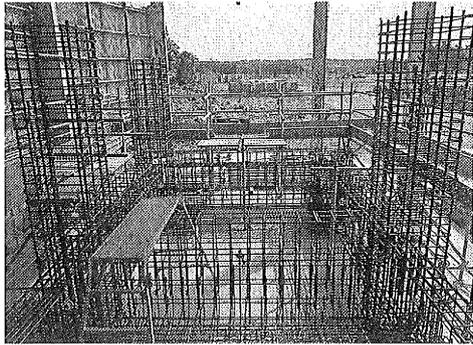


# 日本列島 情報ネット

# 北日

## 東北初の鉄筋モックアップ

基礎・地中梁部の配筋状況



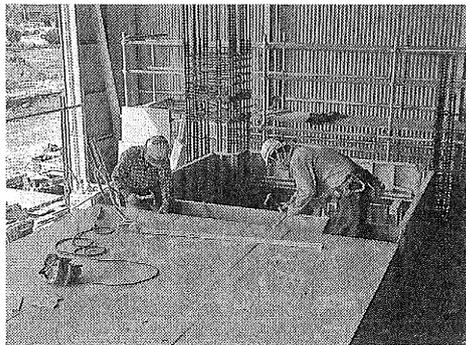
東北初となる鉄筋の配筋検査  
研修用の実物大構造見本（鉄筋  
モックアップ）の建設が、10月  
中旬の完成・運用開始に向け、  
佳境を迎えている。

日本建築構造技術者協会（J  
SCA）東北支部（支部長・加  
藤重信氏）の要請を受け、宮城  
県大衡村にある鉄筋工事業者の  
サンエーテック（社長・水間静  
夫氏）が同社敷地内の建屋を提  
供し、建設を進めるもの。鉄筋  
造構造物の品質を左右する配筋

10月中旬の運用開始へ、工事佳境

## D10~29の鉄筋、11トﾝ使用

上階層部には型枠工が入る



検査の技術水準向上を主目的  
に、地場の工事業者、設計・監  
理者、施工管理者など鉄筋造構  
造物に関わる技術者の育成・研  
修を対象にした施設運営を目指  
す。

施設は8月下旬から着工、9  
月上旬に配筋作業を開始し、9  
月中旬時点の進捗率は50%とな  
っている。D10~29寸法の鉄筋  
を使用し、総使用量は約11ト  
ン。内部は基礎・地中梁部と上階層  
部を想定して、それぞれ配筋検

査ができるよう分割されてお  
り、現場さながらの構造体を目  
指すため、足場や型枠も付設す  
る。検査能力向上のため、配筋  
図の読み取りミスや強度の違い  
など、数十カ所の間違いをあえ  
て織り交ぜているのがポイント。  
その半面、配筋作業では  
「当たり前のように正しく施工  
する職人にとって、わざと間違  
えるのは逆に難しく、時間と目  
に見えない苦労が掛かる」（水  
間社長）と話す。

すでに、10月中旬には東京か  
らの視察予定も入っている。加  
藤支部長は「配筋検査の研修向  
けだけでなく、学生にとっては  
鉄筋・型枠工を通じた鉄筋造の  
基本的な構造を学べ、設計技術  
者は新工法や新素材を知る契機  
となる。メーカーにとっても新  
商材や新工法をPRできる施設  
だけに、研修プログラム、受け  
入れ体制の充実を図りたい」と  
している。